

私がこの社会でやってきたこと

通訳者として：交流の懸け橋

通訳協会会員として：経験交流と後進育成

経営者として：通訳者のための環境整備

大島剛（1988年卒、ロシア語通訳者、元(有)ルテニア代表）



1. 経歴

栃木県鬼怒川温泉出身、高校2年から独学でロシア語を始める。

1977年東京ロシア語学院2部を卒業、20歳でロシア語通訳者になる。3ヶ月間サケマス監視船の通訳、その後エンジニアリング会社の技術通訳としてソ連のアンモニアプラントで6年間通訳翻訳業務を体験して帰国。高卒の通訳者として限界を感じ、大学進学を決意。10年のブランクがあるため、国内でロシア語学科の推薦入学の枠を探す。札大が唯一だった。

1984年（27歳）札幌大学ロシア語学科入学。先生の好意と許可を得て、ロシア語の代わりに英語の授業を受ける。可能な限り幅広く教養科目を受講。

在学中に観光ガイド、北海道ロシア連邦スポーツ交流、ヨットレース「平和の白い帆」、小樽ナホトカ・北見ポロナイスク姉妹都市交流、ホクレン対ソ農業交流、知事訪ソなど様々な通訳を経験して、北海道に残ることを決める。

1986年ロシア語通訳協会入会、北海道支部を設立。東京のトップ通訳者と交流

1988年札幌大学卒業後、様々な分野の通訳。(有)ルテニア創業

1992年ビザなし交流開始、ルスランロシア語教室設立。

知事会談、北海道議会交流、北海道ロシア極東経済協力会議が定期的に開催。

JICA 中央アジアコーカサス対象の環境・農業・保健医療・地域開発研修通訳

TBS 世界初ベーリング海峡気球横断、98年北極圏犬ぞり横断など冒険通訳

08年エルミタージュ美術展 in 静岡、芹沢展 in ロシア、日本平動物園白熊導入

ロシアテレビドラマ北海道ロケ「北海道警察ロシア課」受入

やけどのコースチャ以降、ビザなし人道支援も含め医療通訳多数

主に逐次通訳、同時通訳もあり、通訳に伴う翻訳も多数。

公式通訳、会議通訳、技術通訳、スポーツ通訳、法務通訳、医学医療通訳など。

講演概要：

- ・なぜロシア語を始めた？
- ・どうやってロシア語を修得した？
- ・どうやって通訳者なれたのか？
- ・通訳料金と労働条件
- ・通訳者の準備
- ・通訳者の苦労
- ・通訳者の喜び

2. 印刷物

(1) 著作・翻訳・編集

- ①『日本2001』『日本2005』～ロシア語日本案内・統計（共著）
- ②『ビザなし交流会話集』北方領土問題対策協会発行（編集）
- ③ビザなし交流ハンドブック（非売品）
- ④医療用語ハンドブック17冊セット（編集委員長）
- ⑤たけしノート総合、たけしノート医療（非売品）

(2) 学術論文・研究報告

- ①『エルミタージュ美術館名作展』「花の光景」2005年、静岡市（翻訳）
- ②『ロシア民族学博物館アイヌ資料展—ロシアが見た島国の人びと』図録所収。2005年札幌 財団法人アイヌ文化振興研究推進機構（翻訳）
- ③『日本の色彩—芹沢銈介の世界』静岡市芹沢銈介美術館編集。2006年（翻訳）
その他学術紀要、シンポジウム資料集掲載論文・研究報告の翻訳など多数。
- ④『ロシア人類学民族学博物館（クンストカメラ）アイヌ工芸展—ロシアが見たアイヌ文化』2013年（翻訳）

(3) その他

- ①『日本案内』「ロシア語ガイドテキスト」1992年、ロシア語通訳協会発行（北海道コーナー担当）
- ②『ほっかいどうの通訳者たち』「楽しい仕事はない！」インタビュー集、2010年、北海道通訳アカデミー編著、発行